



# ぴっぴだより

NO.2 2015.4.28

雪や雨が降り、おもしろくない天気が続いた4月。やっと最近になって春の陽気を感じられるようになった。スキーやアスレチックが楽しめるようになってきました。これで冬物も来シーズンに向けてしっかり洗濯できそうです。それぞれでつつおあまくなり、「おあまくなり」「くりさん」「まつぼっくりさん」と呼ばれることにも慣れてモテ様子のあまのみのみんな。そしてあまのみなさん達と混じりあって遊ぶ。じんぐりさんたち。気温が低い雨の日も多かったので、じんぐりさんにしては好条件のスタートではなかったにも関わらず、本当にみんな堂々としています。朝のあつまり。例年だと泣き止んでいたり、切り株の座ることに抵抗感があり立ち歩いていたり不安な様子からしばらく経っていたのですが、今年度は3週間にもなる最初から切り株に腰かけ、名前を呼ばれて「はい」と手を挙げて返事をする人も多く、絵本や歌も戸のしんではいます。そして見事なあまのみの。木太りに入り、泥をぬき、電車ごっこで森を模倣し、秘密基地に入り、崖に登る...。雨も不自由に感じず、ドロドロになって遊んでいる。たのび遊んで後のうんち、おもしろい食のりです。これだけ身体を動かして遊んでいるにも関わらず、帰りのあつまりで眠たくてほうちもにないのに寝ます。いろいろな場面で「意欲」を感じているじんぐりさんたちです。

保護者の方へ一日の様子を降園見にかいつまんでお知らせして「絵本なんて家で読む方があまのみのに...」「家では自分でアソビを持って食べたりしていないのに!」と驚いたような反応が返ってくることも多いです。これは向もじんぐりさんに限ったことではなく、あまのみの子でも通ったことでもあります。あまのみの時には泣いていたのに帰る頃にはおもしろい様子で帰って泣き止む。家では食べないものをあまのみのうんちで食べる。家では手伝わなくて着替えるのに、あまのみので自分で着替える...。「なんで?」というおもしろい疑問が、家庭での姿とあまのみの姿がまるで別人かのように違うことがあるのは、とても自然なことなのだと思います。

先日、母子関係や子どもの自立過程を研究している方の著書を読みました。その方の研究で、家庭で親しい場所と保育園で保育士がいる場所とを別々の日の同じ時間帯に訪問し、それぞれで同一の子どものビデオ撮影を行うというものがありました。その研究の結果、例えば、保育園より家庭にいる時のほうが泣き止むまでの、1秒もずかた子どもたちは、家庭と保育園を驚くほど行動を切り替える傾向があることがわかったそうです。(「アロマチング」の島の子どもたち、根岸山光一、新曜社、2012)これは、保育園は多くの大人と子どもが公共性の高い場所であり、家庭は親子だけで親しい私的で親張りの環境であるという違いが起因しているのではないかと指摘されています。その上で、家庭では親との間で自己主張するという学びが得られ、保育園では子どもは「大人」として「子ども」の目と気にならずに自己制御的に関わり、「公徳心」を鍛錬している。家庭と保育園のどちらの経験も子どもが育つ上で不可欠な要素だと述べられています。至極納得。我が子の家庭とあまのみの両方の姿を観望できる特異な立場の僕は、それと強く実感します。

子どもという存在は、中心が一つのきれいな円ではありません。きれいな階段のように成長のかけでもありません。少しづつ成長もかまいませんが、複雑でぐちゃぐちゃで理解困難で一筋縄ではいかない存在だと思っています。そんな子どもたちは、家庭とあまのみの、ふたつのあまのみの世界で育っています。大人には理解しきれない行動も、子どもなりに理由や背景があつてのこと。そんな子どもたちの気持ちに寄り添いつつ、必要な時には手を貸し、一年間の育ちを見守りたいと思っています。

信之介

# おおきいくみ だより ♪

今年度のおおきいくみは、まつぼっくり10名、くり6名、おおくり9名の25名スタートです。おおきいくみでは、春の集まりの前にマラソンをします。いつものように体操をして、マラソンがスタートすると立ち止まって「?」はまつぼっくりさん数人。みんな走るんだ...ということになると走りだします。ぴっぴの日、どんぐりさんはまだ少し早い時間のランチになります。「あ、まつぼっくりさんも一緒に食べたいかな、ちやうどね」とスタッフで言葉をしていましたので準備はしていました。しかし想定外だったのは、おおくり・くりさんもどんぐりさんのランチが食べるとテーブル付近をウロウロ...。朔次朗・堅・悠太は水筒を持って平均台に座り、行列に並んでいる人のように席が空くのを待っています。他のおおきいくみたちもそれぞれしているのがわかりました。キッチンから香るお料理の匂いと音に誘われ、ぴっぴの日はお腹がすくのが早い、おおきいくみたちです。

おおくりさんはお掃除でぞうきんを使います。一年間使う自分のぞうきんを作りました。初めての針仕事の人にもいます。しかし糸通し方を丁寧に伝えると一回で理解出来た。一針ごとに布を裏返しながらゆっくり縫っていく理央子・壺・明日香・悠太・俊林・行人。布が少し大きかったので糸通し箇所がたくさんあり、1針縫ったが、縫い終わるまでなく、地道にコツコツと縫う姿がありました。本当は布を針ですくって縫うてしまう方が簡単なのですが、初めての針仕事だったので一針、一針縫うことを先に伝えました。心美・陽麗・朔次朗は布をすくって縫う方が得意なようです。おしゃべりをしながら...集中もしながらのチクタク針仕事は楽しいものです。理央子「おおくりさんはこうやってぞうきん作っていたんだね。学校かあ、やだなあ。」明日香「このあと言葉の練習する?」みほ「えっ? ありがとうの会の?」明日香「そうだよ」と一年先のいっしょを始めた理央子と明日香。みほ「えー! まだまだおおくりさんでたっぴりあまのみのよ!」理央子・明日香「さか〜さうだね!」と笑ってしまうことがありました。ついこの間までおおくりさんが学校への準備をしていたこと、ありがとうの会の準備をしていたことをよく覚えていて「さあ、自分の番が来た!」とやる気になったのです。また、おおきいくみで田んぼで種まきのお仕事があり、おおくり・くりは、長靴と靴下をぬいで田んぼに入る話を伝えると「やだ! 長靴はめがない!」と泣く。すると隣にいた壺がすすさず「大丈夫だよ。ちゃんと洗えるし、きれいになるから気持ちいいよ。」と丁寧に話をかけていました。おは「わかった!」と了解したわけではありませんが、渋々納得。でも大人の声かけは一言もいりませんでした。自分よりちいさいひとへの声かけを丁寧にしている人。ひとつおおきくなったことが嬉しい人。どんぐりさんの絵本の時間にちよこんと座っていた人もいたり...。見におおきいくみとなり戸惑うまつぼっくりさん...と木々々ですが、少しずつ大きくなったことを実感しているはおおきいくみのひとたちです。

今年はどんなおおきいくみの一年になるでしょう。おおきいくみのひとたちと楽しいこと、面白い事、たくさん見つけ出して楽しんでいきたいと思っています。

本文 敬称略 : 美穂

## お知らせ

- どんぐりさんの 降園時間 が変わります。  
5月12日(火) ~ 14時 みんな同じに！
- 今年度 第一回目の保護者会 を開きます。万障 お繰り合わせてご出席をお願いいたします。

日時 5月13日(水) 9時20分 ~ お昼頃  
場所 バイブルメインホール (そのまきメインホールで 昼食を召し上がることは可能です。)

- 今月から くるみの日 と ひらびの森解放日 が始まります。ご希望の方がいらっしゃいましたら ひらび HP もご覧下さいようお伝え願います。
- 今年度の お泊まり会 については、保護者会で 割く お伝えする予定ですがご家族同士の楽しい親睦の時にしたいと思います。
- テント泊 可能です。宿泊代が 安く！
- 小学生以上の方は、スタッフと一緒に ちとずて 寝ます。
- 5日(金) 15時頃 ~ 6日(土) 10時頃を予定しています。
- 保育の一貫として 行なうプログラムです。

## おおきいくみの方へのお知らせ

- 今月のアート日 11日(月)・25日(水)
- 今月の えりんこたいそう 20日(水)
- 今月の ライジングフールド 14日(木)
- 今月の 田んぼ 18日(月)
- 今月の お料理 21日(木)

毎月一回を予定しています。お弁当は要りません。  
メニューは子ども達と相談します。  
ラン4代 300円は 納入袋にて お納めいただけます。

## 田×田 T=より

4月16日(木) おおきいくみでは 田んぼで 稲の種もみ蒔きをしました。4月16日の朝から 水に浸けておいた種は 小まめに水をあげて、ひと粒一粒くっついておいて 苗床の土にまいて 土とくっついて (もみ殻を土に混ぜたもの) をかき びーん！と 苗床の出来上がり。これから 1ヶ月ほど 芽が伸びるのを 待ち 5月1日に 見に行きます。これから 5月1日 ~ 5月15日 まで 5月16日 ~ 5月21日 まで 田んぼの予定は、隣の田んぼは 人参とカブの種まきもしました。田×田 田んぼの春！です。

## 山崎賢司さんご紹介

わこさんの 田×田の 師匠、川崎の 美奈子 先生は、自然農の世界では有名な方です。おととし 急逝されました。そのお弟子さんの一人、山崎賢司さん(けんちゃん)は わこさんの 農業仲間、ひらびにも 手紙に書いて 野菜や 加工品(たくあん、ちりめん、トマトソースなど)を 分けてくださいます。ランチメニューに「けんちゃんのとある日は 毎テック！」今年も おいしいランチにできそうです。

## ひらびの森の仲間たち ~ 森の中でみつけてね！ ~ <4月カラマツ>

森の木々がかわいらしい若葉を広げる季節になりました。冬の間、眠り続けていた植物たちが、子どもたちの声を聞いて一斉に目をさましたかのようです。今年度 紹介する 森の仲間は「樹木...の芽」。集金袋に描いてある12種類の木の芽を1つずつ紹介していきます。これらは全てひらびの森にあり、ぜひ、探してみて下さいね。袋に描いてあるのは冬 ~ 早春の木の芽の姿ですが、植物は春夏秋冬と様々な姿に変わります。その変身ぶりを楽しんでいただけるといいですね。さて、4月、まず最初に紹介するのはカラマツの木。カラマツの木は知っていても、みなさん「花」ってなに？とありますが、4月末 ~ 5月に咲くのですが、雄花と雌花の2種類あります。そして雄花は下向きに、雌花は上向きに咲いているので、どちらかわかりやすい。なぜ、上と下に分かれているのでしょうか...。それは雄花が花粉をまき、雌花は花粉をキャッチするので一番通合がよいようにそうになっているのです。そして花の色ですが、雄花はクリーム色 ~ 薄緑色をしています。ひらびの森では、カラマツのツボクサの開花は、なんと ショッキングピンク！に 蛍光の黄色、黄緑！という派手な色合いなのです。(私の色鉛筆にそっくり色がなく、表現しきれず...。すみません) まるでその様子は 海の中の イソギンチャク のようです。ぜひ、ぜひ、これから見頃ですので、今年の春はカラマツの花のお花見をしてみたいですね！感動しますよ ~ !

